

雪嶺集

〈宮坂静生鑑〉



鍋

小林貴子

片膝を立てて構想練る夜長
象山の地震予知器や秋気澄む
象山神社お宮参りに小鳥来る
爽涼や碧一色の絵を描かむ
稲刈の始まつてゐる分家かな
回春や上野に蛙鍋の店
火恋しミラン・クンデラ読む夜は
星月夜そこを松岡正剛が
茸狩岩鼻に出で温まる
指揮をふる指しなやかに爽やかに

(篠遠草紀さん)